

図書館だより

2月号

川之石高校図書委員会



今年度も残すところ一か月余り。川高図書館では今年度も約 100 冊の新しい本が入りました。皆さんのリクエストによって購入した本もあります。多くの人に読んでもらえた本もあれば、ほとんど借りられない本もありました。最近購入した本は図書館入口付近に置いてあります。ぜひ手に取って読んでみてください。

3年次生はまもなく卒業となります。読書の時間を確保するのはなかなか難しいかもしれませんが、これまで読書にあまり時間が取れなかったという人も、機会を見つけて本を読んでみてください。

〔新任の先生より〕

「本を読むこと」

商業科 平田 友志



私の父は本を読むことが好きである。実家の本棚には本がずらりと並んでおり、何冊あるのか聞いてみたところ、処分したものもあり分からないということであった。特に歴史に関する本を好んでおり、なぜ本を読むのか問いかけたところ、「本を読むことで生き方の勉強になる」ということであった。

それに対して私は、小学生の頃はある程度本を読んでいた記憶があるが、中学、高校、大学と上がるにつれて、情けないことにあまり本を読まなくなってしまった。ただ、以前話題となったドラマの原作である半沢直樹を書いた池井戸氏の本はよく読んだので、少し紹介したいと思います。

まずは、「半沢直樹シリーズ」です。現在5作品出版されています。ドラマで見たことがある人もいるかもしれませんが、銀行や出向先の会社でお決まりの台詞でピンチを乗り越えていきます。

次に「空飛ぶタイヤ」です。これは、映画化もされており、運送会社の社長が大企業の不正に立ち向かっていきます。

最後に「花咲舞が黙ってない」です。これもドラマ化されており、同じ銀行の仲間でも不正は絶対に許さない、銀行内の闇に挑んでいきます。

本校には朝読の時間があります。朝の10分間ですが、積み重ねていくと多くの本を読むことができます。この時間を利用していろいろな本を読んでほしいと思います。

〔新刊図書の紹介〕

※今回も新しく購入した図書を紹介します。



『愛と涙と勇気の神様ものがたり まんが古事記』

(ふわ こういちろう 著)

天岩戸開き、ヤマタノオロチ、因幡(いなば)の白兔、海幸彦と山幸彦など、日本の神話はどれも『古事記』に載っているもの。『古事記』は、個性的なキャラクターの神様が様々な愛憎劇や冒険活劇を繰り広げる、愛と涙と勇気の大ストーリー。

『お探し物は図書室まで』(青山 美智子 著)

人生に悩む人々が、ふとしたきっかけで訪れた小さな図書室。彼らの背中を、不愛想だけれど聞き上手な司書が、思いもよらない本のセレクトとかわいい付録で後押しします。自分が本当に「探している物」に気がつき、明日への活力が満ちていく心温まる小説です。



『おべんとうの時間』(阿部 了・阿部 直美 著)

阿部夫婦が全国各地の手作り弁当を取材したフォトエッセイ集。

海女、釣り堀経営、素麺職人、高校生、猿まわし、営業マン、大学教授等、市井の人たちが見せてくれた手作りのお弁当。食べながら語られるのは、仕事のこと、家族のこと、こどもの頃のこと。そこには、弁当の数だけ絆の物語がありました。

〔1月 月間図書貸出冊数〕

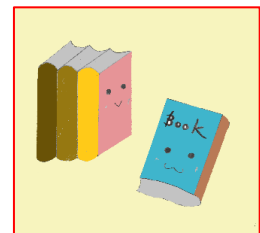
〈クラス別〉

1月9日～1月31日

1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	合計
3冊	0冊	2冊	10冊	2冊	15冊	2冊	1冊	0冊	35冊

〈個人別〉

1位 10冊 清水 美愛 (2-3)
 2位 8冊 清水 英磨 (2-1)
 3位 4冊 竹内 夢乃 (2-3)



**「あらゆる良書を読むことは、
 過去数世紀の最高の人々と会話するようなものだ。」**
 ルネ・デカルト (フランスの哲学者/1596年 - 1650年)